

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	食肉衛生検査所	氏名	北脇 由紀			
派遣先 団体名	鳩巣コミュニティセンター					
① 研修の日時						
平成23年10月19・20・21日、24・25日、29・30日の7日間						
② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)						
<ul style="list-style-type: none"> ・各種配布物準備(地域、来訪者など) ・各行事会場準備 ・センター報カレンダー作り ・『モーちゃんとピーちゃんの涙』の冊子作り ・秋まつり準備 ・秋まつりアシスタント 						
等						
③ 研修の感想						
(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)						
<p>普段の業務では、県民の方と接する機会がなかったため、研修への参加を希望した。鳩巣コミセンは、モデル公民館に選定されており、非常にたくさんの行事を行っておられるとともに、利用者のボランティアで成り立つところが大きいと感じた。また、県からの助成金でいろいろな事業を行い、助成金で購入したもの(わたあめ機・法被・ポップコーンマシーンなど)が活躍しており、県の助成金がどのように使われているのかを垣間見ることができた。作業の中に、モーちゃんとピーちゃんの涙の冊子作りがあったが、これは大田市のお寺の住職が口蹄疫の話を子供向けにしたものに川跡地区の住民の方が絵をつけたもので、冊子にしたかったが、する機会もなく、これを宮崎の獣医師や農家さん、島根県知事や島根の獣医師、畜産関係者、行政関係者などに読んでもらいたいが繋がりもなく、困っていた、ということで、県職員獣医師である私に冊子にしてほしい、広めてほしい、と温かくも強い願いをお話しされた。このことから、こういったなにかしたいことがあっても、つながりがないために表に出てこれないものを持っているところはたくさんあるのではないか?このような事例はいくらでも潜んでいるのではないか?行政に相談したくても敷居が高くて相談しにくいということはないか?こういった相談を受けたときに、行政はどこまで協力できるのだろうか?『公務員獣医師』という肩書を持っているだけで、宮崎県や溝口知事や畜産関係者などとコネクションのない自分は、せっかくのこの温かく強い願いを次につなげられないという無力感と、自分にできることはなにか?回覧で終わらすのではなく、繋げたいという思いに駆られた。研修終了後、獣医師会の雑誌に掲載されていた宮崎の畜産診療所の獣医師の方で、実際に宮崎の畜産農家で診療したり殺処分に携わった方に連絡をとり、冊子を送らせてほしいと依頼したところ快諾していただけた。コミュニテ</p>						

イセンターにもこのことを報告すると、宮崎の農家さんへのメッセージを集めて、溝口知事へ冊子と一緒に送ろうと思っていたところだったが、メッセージはそちらに送るので一緒に宮崎に送ってほしいと言われた。回覧だけで終わらせることなく次へ繋げる道を見つけられたことは本当によかったと思う。しかし、こういったことはプライベートの範囲なのか、行政としての協働のひとつなのか、よくわからない。出先機関であるこの職場の業務ではもちろんない。自分が協働について、あまりにも無知であったことに気がついた。今後はもっと協働について、行政のかかわり方などについて、勉強したいと思う。またこういった研修の機会があれば、参加したいと思う。

④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

(注1)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

(注2)研修期間(7月～3月)中、報告会を開催します。